



これまでの 発掘調査の成果

史跡整備に必要な情報を得るため、昭和40年度から令和元年度まで12回にわたって発掘調査を行いました。その結果、寺院の範囲の確認や建物跡の発見、瓦・土器・金属製品の出土など多くの成果が得られています。



17個のうち10個の礎石が現存。基壇は凝灰岩の切り石積み構造(平成4年)



塔の先端にある金銅製の水煙の一部が出土(平成4年)

塔に葺かれていた軒丸瓦は蓮華、軒平瓦は唐草がモチーフ



僧房跡

調査で9部屋を確認。礎石を使わない掘立柱建物から、礎石の建物に建て替えられていた(平成8年)



土師器

須恵器

紡錘車

錠

金堂跡



基壇側面には河原石が葺かれていた(平成18年)

講堂跡



土を埋めながら固めた版築という地盤改良を行った上に礎石が据えられている(平成16年)



儀式のときに明かりをともした皿。外側に墨で文字が書かれている

中門跡



中門の南東で大量の瓦が出土。中門から落下したのか捨てられたのかは不明(平成5年)

史跡相模国分寺跡の保存に尽力 中山毎吉

なかやま つねきち



中山毎吉(1868-1942)

国分村で生まれ、尋常高等海老名小学校の校長となる明治42(1909)年頃から、相模国分寺跡や郷土史の研究に

明治時代の相模国分寺跡は、維新後の「廃仏毀釈」の影響もあり、礎石が掘り返されて他に転用されるなど荒廃していました。その状況に心を痛め、相模国分寺跡の調査研究と保存運動に尽力したのが「中山毎吉」です。

着手。大正10(1921)年に国指定史跡となるよう貢献しました。同年には海老名小学校の校庭に遺物陳列所を設立し、瓦や土器などの多くの貴重な遺物を収蔵・展示しました。大正13(1924)年には、矢後駒吉と共著の「相模国分寺志」を発行しました。相模国分寺を研究してまとめた全国的にも先駆的な書物です。

中山毎吉をはじめ相模国分寺跡の保存に尽力した人々の思いは、100年たった今も受け継がれています。



龍峰寺内にある徳徳碑と海老名郷土かるたの擬木柱。擬木柱には「郷土史の道を開いた 中山翁」の歌が詠まれている

中山毎吉の業績を紹介

海老名市史叢書1 相模国分寺研究の先駆者 中山毎吉—その人と業績



中央図書館・市役所情報公開コーナーで閲覧できるほか、市役所地下売店で販売(1冊1,000円)しています。

最近の発掘調査

令和元年度に行った第12次調査では、東側の区画の溝が2本発見されました。



動画を配信中

史跡相模国分寺跡の概要や発掘調査の様子などを紹介しています。動画配信ページ



動画配信ページ

展示 「100年かけて 相模国分寺跡の 謎に迫る」

出土した瓦や水煙などを展示し、発掘調査の成果を100年の軌跡とともに紹介します。

期 2月13日(土)～12月5日(日) 9時～17時15分(入館は16時30分まで) 場 海老名市温故館

温故館 2月・3月の休館日

2月7日(日)まで、
11日(木)祝・12日(金)、
3月8日(月)

新型コロナウイルスの感染拡大状況などにより、予定は変更となる場合があります。詳細は市ホームページをご覧ください。